国立科学博物館

賛助会費を使った活動（2023年度）

2023年度におきまして、賛助会員の皆様にご支援をいただきました賛助会費により、
様々な博物館活動を実施することができました。厚くお礼申し上げます。
ここに深く感謝の意を表しますとともに、活動内容の詳細をご報告させていただきます。

標本資料の製作・受入・保存・修復

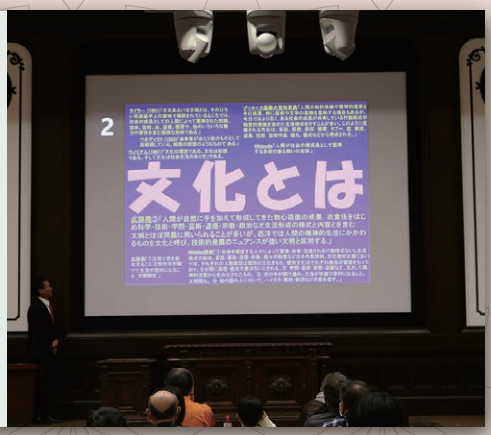
- キタゾウアザラシ全身剥製標本の受入
- 鳥類写生図「18 紙」修復
- 「親と子のたんけんひろば　コンパス」内の標本資料の修復・補修　等

青少年の自然科学等への興味・関心の向上

- 筑波実験植物園　商業施設でのイベントの開催
- 東京都都市公園制度制定150周年・上野恩賜公園150周年総合文化祭への出展

地域博物館等と連携したイベント

- 講演会「文化と自然科学のクロスポイントを探る」の開催



標本資料の製作・受入・保存・修復

キタゾウアザラシ全身剥製標本

キタゾウアザラシ全身剥製標本の受入

キタゾウアザラシは北太平洋の北アメリカ大陸西岸のアラスカからメキシコのバハ・カリフォルニアの海岸にかけて棲息する、日本には棲息していない種です。
当館はキタゾウアザラシの個体を所蔵していなかったため、加茂水族館（山形県）で飼育されていた個体の寄贈を受け、剥製標本にしました。展示・学習支援、学術的調査・研究に幅広く活用します。

アフリカクチナガワニおよびナイルワニの剥製化

国内飼育数が少なく入手の機会が限られているアフリカクチナガワニ及びナイルワニ各１頭を熱川バナナワニ園から寄贈を受け、剥製化しました。特にアフリカクチナガワニは国内に１頭しか標本が現存しておらず非常に希少であること、細長い吻（ふん）というクロコダイル科の中では特異な形態的特徴をもつことなど、ワニ類の形態進化と環境適応を知るうえで重要な資料です。

アフリカクチナガワニ（上）ナイルワニ（下）

長良隕石１号

長良隕石１号の購入

長良隕石は 2012 年に岐阜県岐阜市長良の畑で発見された鉄隕石で、東京大学と国立極地研究所で分析されて2018年に国際隕石学会に登録されたものです。当館では2019年に借用して短期間のミニ展示を行いましたが、標本資料は所蔵していませんでした。１号の所有者から長良隕石を購入し、貴重な日本の隕石としてコレクションに加えました。

カーマハーテビースト（左）
セーブルアンテロープ（右）

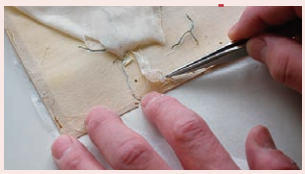
■ 科博収蔵品展2023の開催 ■

2024年2月6日～2月25日まで、過去数年間に賛助会費を使って製作、受入等を行った標本・資料を中心にご紹介する展示を上野本館で行いました。昨年度受入を行ったウミガメや今年度受入を行った長良隕石１号も展示しました。

漢那コレクションの一部
（ウミガメ 77 体）

鳥類写生図　修復前

鳥類写生図　修復後



裏打ち紙の除去

鳥類写生図「18紙」修復

鳥類写生図は、東京帝室博物館より移管された天産図譜のうちの 1 点です。今回 18 紙について、巻物状の本紙を1紙ずつに解体して、和紙にて裏打ちをし直し、本紙を中抜きした中性紙マットに挟む修復を行いました。これにより長期の保存・展示に適した状態となりました。

関東大震災の様子を描いた油絵の修復作業

当館所蔵の1923年に発生した関東大震災の被害の状況を描いた油彩画 13 枚のうち、「大磯地割れの状況」と「北條町の被害状況」の 2 枚の修復と額装を行いました。長期の展示や保管に適したミュージアムアクリルと額を装着し、中性紙の専用箱に入れて収蔵しました。

北條町の被害状況　修復後

セーブルアンテロープ
修復前

セーブルアンテロープ
修復後

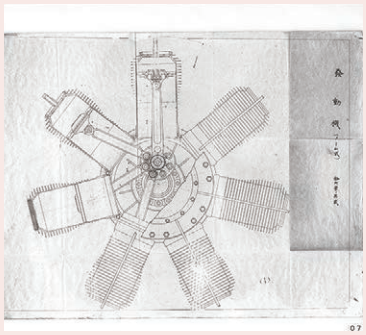
「親と子のたんけんひろば コンパス」内の標本資料の修復・補修

当館地球館3階の「親と子のたんけんひろば コンパス」では2023年11月15日（水）からの再開に際し、喫緊の対応が必要な剥製が数点あったため、展示している剥製の修繕を行いました。この修復・補修を通じて、剥製を万全の状態で展示することができました。

酢酸化マイクロフィルムの複製・デジタル化

理工学研究部所蔵のマイクロフィルム類は、電子機器の設計図や地震波形、航空機の図面などを記録しています。その一部は近年急速に劣化・酢酸化が進み、データ消失の恐れがありましたので、特に劣化が進んでいた240巻について、複写やデジタル化を行いました。

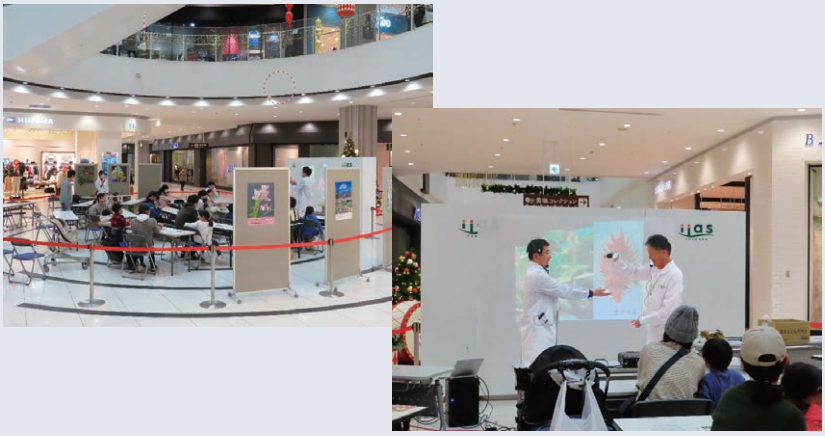
劣化したマイクロフィルム（左）
複製したフィルム（右）



発動機デジタルデータ

青少年の自然科学等への興味・関心の向上

筑波実験植物園　商業施設でのイベントの開催



イベント会場の様子

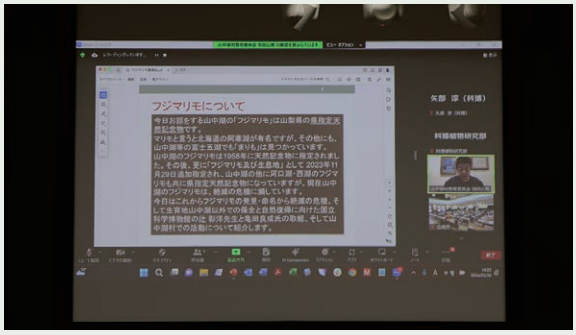
イベントのチラシ

広く植物に興味をもってもらうため、つくば市内の商業施設で児童を主対象とした「不思議・おどろき　タネの形でサイエンす !?」を開催し、児童が植物に更に親しみ、学ぶことのできる植物園の活用とその魅力を紹介しました。本イベントによってこれまで筑波実験植物園を知らなかった保護者・児童にその存在と価値をアピールすることもできました。

地域博物館等と連携したイベント

講演会「文化と自然科学のクロスポイントを探る」の開催

芭蕉布の魅力と不思議（沖縄県立博物館・美術館）



山中湖のマリモ（山中湖村教育委員会）

人文学的な価値の高い文化財にも意外な自然科学的な価値を持つこともあるように、文化と自然科学が交差した研究の話を通じて、参加者に文化と自然科学の繋がりを普段の生活から考えていただくことを促す内容にいたしました。沖縄県立博物館・美術館から１名、山中湖村教育委員会の方１名が講演会に登壇し、それぞれ「芭蕉布の魅力と不思議」、「山中湖のマリモ」をテーマに上野本館で講演を行いました。